

令和4年度 施策レビュー(二次レビュー) 改善提案への対応状況

1 基本情報

施策名	5-2-1 全ての世代に対する健康意識の醸成と動機づけ		
実施日/グループ	令和4年7月30日(土) グループ②	施策担当部	福祉保健部
作成日	令和5年2月14日	記入責任者	福祉保健部長 柴田みどり

2 施策の対応状況

(1)(二次レビュー以前)施策の実現に向けた課題認識、対応の方向

<課題認識>

- ① 生活習慣病予防のためには、生活環境や年代に応じた健康づくりを実践していく必要があるが、特に若い世代においては、自身の健康に対して無関心な傾向にある。
- ② コロナ禍による自粛生活等により、日常での身体活動、人的交流の機会が減少している。
- ③ コロナ禍での受診控えから、健(検)診受診率が低下している。

<対応の方向>

- ① 第2次健康増進計画に基づき、「栄養・食生活」「身体活動・運動」「健診受診」を重点項目に位置づけ、各ライフステージに応じた健康づくり事業に取り組む。
- ② 運動やスポーツを通じてアクティブかつウェルビーイングな地域形成をめざす「アクティブシティ推進事業」において、市民の健康づくりを支援する環境づくりに民間企業や市民団体等と協働で取り組む。
- ③ 健(検)診受診の重要性について、個別の受診勧奨とあわせて、様々な広報媒体を活用して広く周知を図るとともに、WEB予約の実施など受診しやすい環境整備を図る。

(2)二次レビューでいただいた主な指摘事項、改善提案等

- ① 施策が全ての世代というのであれば、世代別の課題が認識されていなければならない。
- ② 今後の事業展開や取組みの中で、無関心層（関心はあるけど後回しにしている人も含めて）に情報をよりわかりやすく魅力的に届ける必要がある。
- ③ なぜ健(検)診を受けないのかといった仮説も必要であり、それを課題としながら具体的な事業へ落とし込んでいく必要がある。

(3)外部からの改善提案等を踏まえて検討した見直し事項

- ① 現在、健康づくりの一環として実施しているポイント事業は、参加者の固定化・高齢化といった課題があることから、スマートフォンを活用した新しい形のポイント事業を実施する。

- ② 健(検)診受診の個別勧奨と並行し、ポイント事業等での企画を活用し、事業者等への働きかけを強化する。
- ③ 若い世代に対する働きかけとして、「楽しく」「美しく」「アクティブでウェルビーイングに」といったポジティブなアプローチ戦略で事業展開を図る。

(4) 予算要求、査定結果を踏まえて、次年度に向けた課題の捉え方、改善点、取組の方向性等

- ① 令和4年度に導入した「福知山 KENPOS」を基軸とし、より幅広い年代や事業者をターゲットとした事業を展開する。
- ② 日常生活での行動内容、歩数、健診、事業参加状況等のデータ活用を視野に入れ、登録者数の増加と利用促進を図る。
- ③ 民間事業者等との連携協働を深めるとともに、推進団体の増加を図り、より幅広く実践的な推進事業を展開し、「アクティブシティ」を市民運動化していく。

3 改善提案等を踏まえた主な事業の対応状況

(1) アクティブシティ推進事業

- ① 新しく導入した「福知山 KENPOS」を活用したポイント事業のさらなる拡充化（健診受診に対するポイント付与、学校寄付の機能追加、企業向け歩数企画など）と参加促進を図り、アクティブライフの実践につなげるための動機づけとなる環境を構築する。
- ② アプリ内でのアンケート調査やポイント付与データを活用した分析調査を進めながらアクティブシティ推進市民会議の団体等と協働し、より効果的な健康づくり事業を展開する。
- ③ 新たに（仮称）アクティブシティアドバイザーを設定し、関係課との協働事業等を通じて、日常生活に運動・スポーツを取り入れる行動変容を後押しするとともに、本市のアクティブシティ推進の取組みを広く発信する。

(2) 国保健診事業

- ① 国保パンフレットや広報ふくちやま等の媒体を用いて、記事の見せ方や内容を工夫することで、被保険者に対して更なる周知の強化を図る。
- ② 令和5年度で3年目となる国保歯科健診事業について、受診率向上のための取組みを展開する中で被保険者の関心を高め、健康づくり意識の向上やフレイル予防等へつなげていく。